売られていった靴

新美南吉

靴屋（くつや）のこぞう、兵助（へいすけ）が、はじめていっそくの靴（くつ）をつくりました。

するとひとりの旅人（たびびと）がやってきて、その靴（くつ）を買いました。

兵助は、じぶんのつくった靴（くつ）がはじめて売れたので、うれしくてうれしくてたまりません。

「もしもし、この靴（くつ）ずみとブラシをあげますから、その靴（くつ）をだいじにして、かあいがってやってください。」

と、兵助（へいすけ）はいいました。

旅人（たびびと）は、めずらしいことをいうこぞうだ、とかんしんしていきました。

しばらくすると兵助は、つかつかと旅人のあとを追っかけていきました。
「もしもし、その靴のうらの釘がぬけたら、この釘をそこにうってください。」
といって、釘をポケットから出してやりました。
しばらくすると、また兵助は、おもいだしたように、旅人のあとを追っかけていきました。
「もしもし、その靴、だいじにはいてやってください。」
旅人はとうとうおこりだしてしまいました。
「うるさいこぞうだね、この靴をどんなふうにはこうとわたしのかってだ。」

兵助(へいすけ)は、

「ごめんなさい。」

とあやまりました。

そして、旅人のすがたがみえなくなるまで、じっとみおくっていました。

兵助は、あの靴(くつ)がいつまでもかあいがられてくれればよい、とおもいました。

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
１９８８（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
入力：めいこ
校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ
２００３年9月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。